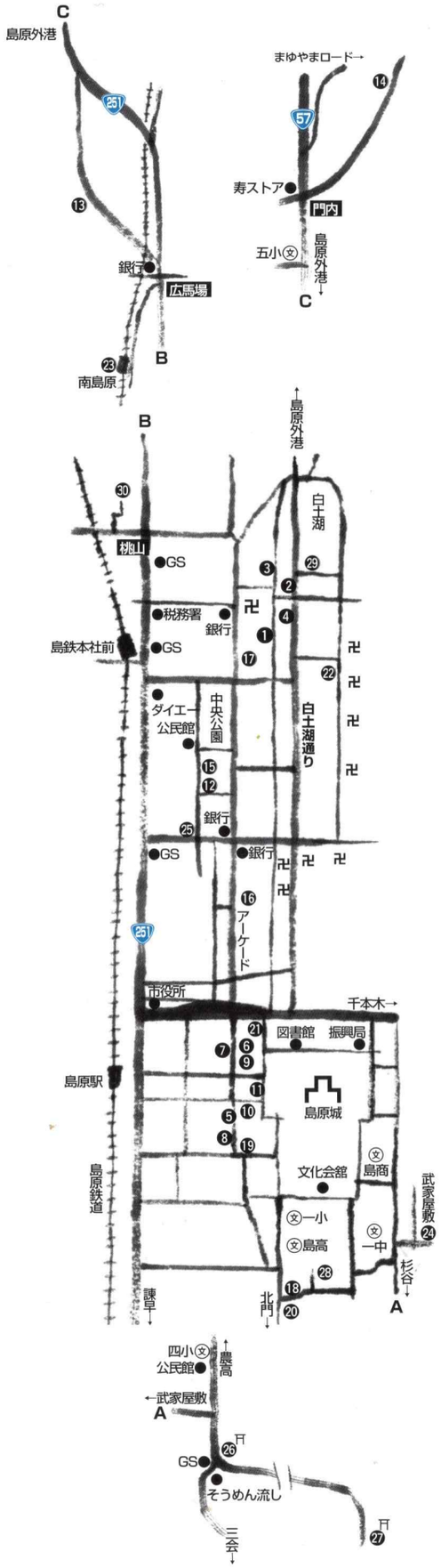


	番号	箇所名	所在地
町家	❶	白土町街並み	白土町
	❷	山崎邸(旧俵屋)	白土町
	❸	旧ライオンズクラブ(旧小松屋)	白土町
	❹	本田邸(塩屋)	白土町
	❺	上の町街並み	上の町
	❻	猪原金物店	上の町
	❼	紘燈舎	上の町
	❽	保里川邸(旧平戸屋)	上の町
	❾	中野金物店	上の町
	❿	酒蔵煙突	上の町
	⓫	宮崎邸	城内一丁目
	⓬	旧三村邸(しまばら湧水館)	新町二丁目
	⓭	松尾邸	中組町
	⓮	小鉢邸	札の元町
湧水と町家	⓯	伊東邸	新町二丁目
	⓰	しまばら水屋敷	万町
	⓱	長池邸	中堀町
	⓲	小早川邸	城内二丁目
洋館	⓳	理髪舘	上の町
	⓴	喜多邸	城内三丁目
	㉑	8分団1部消防詰所格納庫	上の町
	㉒	赤星邸	寺町
	㉓	南島原駅	津町
湧水	㉔	武家屋敷水路	下の丁
	㉕	鯉の泳ぐまち	新町二丁目
	㉖	宇土水源	宇土町
	㉗	江里神社	江里町
	㉘	常盤御殿跡	城内二丁目
	㉙	白土湖洗い場(桶川)	白土町
	㉚	浜ん川洗い場	白土桃山二丁目

三沢 博昭(みさわ・ひろあき/建築写真家)

昭和19年(1944年)北海道生まれ
武蔵工業大学建築学科卒業
三沢建築写真事務所代表
武蔵工業大学建築学科非常勤講師土木を撮る会代表
歴史的な建築・街並み・土木構造物・遺跡などを
主なテーマとして、日本、世界各地を広く撮影。

1999年
「**土木造形家百年の仕事**」
土木学会賞(出版文化賞)受賞

2000年夏
長年のライフワークのひとつ
「**大いなる遺産 長崎の教会**」を出版

〔写真展〕

島原の湧水と歴史的木造建築物

撮影－三沢 博昭　解説－松尾 卓次

●

日　時

平成13年 3月12日(月)～18日(日)／10:00～19:00(最終日:16:00)

●

会　場

イリス[九電コミュニティプラザ]長崎
＊十八銀行本店前

主催:(財)住宅保証機構
(財)長崎県住宅・建築総合センター

協力:ながさき安全・安心まちづくりネットワーク in 島原 実行委員会

後援:長崎県・島原市

❶ 白土町街並み　白土町

ここは江戸以前から開かれた町人地。寛政の大変で崩壊土砂に埋め尽くされたが見事に復旧して、大商家が軒を並べていた。城下町の南端にあたり、島原街道が通り、南目への重要な通路になっていた。

❷ 山崎邸（旧俵屋）　白土町

俵屋は藩政時代には俵物を扱う豪商で、この建物も古い。今は、山崎酒造の事務所・自宅となっている。向かいにある旧ライオンズクラブ（旧小松屋）には、昔山崎家の本家があったが、今は使われていない。

❸ 旧ライオンズクラブ（旧小松屋）　白土町

小松屋の屋号を持つ山崎家は藩政時代から続く酒造場。近くの豊かな湧水を利用して島原唯一の造り酒屋さん。弘化3年（1846年）築の家屋や蔵が残る。有家町には「小松屋新田」の名の付く地がある。

❹ 本田邸（塩屋）　白土町

塩屋本田家も藩政時代から続く旧家。酒造場など手広く商業活動を営んでいた。内部にはたたきの土間、帳場、座敷と裏庭など豊かな町人の暮らしが偲ばれる。座敷欄間の東海道の情景の彫り物が見事。

❺ 上の町街並み　上の町・森岳商店街

築城時に開かれた城下町の一つ。藩政時代ここに島原街道が通り、人と物の往来が多かった。旅籠や酒造場、木綿問屋が集まっていた。大正2年に駅が開業すると、北の玄関としてまた非常に賑わった。

❻ 猪原金物店　上の町

長崎、大阪、江戸に通じる島原街道に面するこの地に明治2年に開業した金物店。ご当主は町家と街並み保存に精力的で、この家も建築当初のように修復し、湧水を活用した速魚川も生み出した。

❼ 絃燈舎　上の町

大正8年に建てられた元福武歯科医院を建築当時に復元して、今は和楽器店として活用されており、2Fにはギャラリーがある。小ぶりであるが、大正期の町家の雰囲気をよく伝える魅力的な建物である。

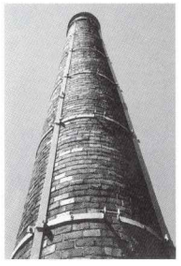
❽ 保里川邸（旧平戸屋）　上の町

旧平戸屋・保里川邸は藩政時代から続く大型町家。建築後150年以上にもなる。2階に旅籠があって、幕末には吉田松陰も宿泊したという。屋内は当時のままで、扇をデザインした透かしは見事である。

❾ 中野金物店　上の町

ここには島原町家唯一のレンガの「うだつ」がある。明治から大正期に西洋建築技術が島原にも伝わり、当時珍しかったレンガ造で壁を築いている。島原では、「うだつの上がる」家である。

❿ 酒蔵煙突　上の町



明治38年宮崎酒造場が開業し、このときレンガ造りの煙突や酒蔵が造られた。円筒形のレンガ煙突は非常に珍しい。
1世紀近く風雪に耐えながらも、島原城下町の移り変わりを眺めてきた。

はじめに

島原の湧水群は、古くから人々の生活の中で、庭園や洗い場、社寺の境内などに自然な形で取りいれられて、島原独特の風景やたたずまいを生み出してきました。

また、島原半島の中心地として栄えてきた歴史を反映して、伝統を担ってきた棟梁、大工に手がけられた数多くの町家、洋館などの木造建築物が今でも市街地に残されており、その中には、湧水と調和をしたみごとなデザインのものも見られます。これまで、普段注目される機会は少なかったものの、最近の森岳商店街の「理髪舘」修復などに見られるように、こうした古くからの歴史的資産の持つ魅力や価値に、今多くの人が気づきはじめています。

写真は、すべて、長崎の洋館や教会建築をはじめ全国各地の文化遺産の撮影で全国的に活躍する東京在住の建築写真家三沢博昭氏が、この夏から秋にかけて二度にわたる数週間の滞在で、精力的に撮影をしていただいたものです。

あなたは、すべての撮影箇所の所在地をご存知でしょうか。島原市で生まれ育った方にも、きっと新しい発見があるはずです。

最後に、今回の撮影にあたって、熱心にご協力いただいた所有者や撮影助手をつとめた市民ボランティアの方々に感謝いたします。

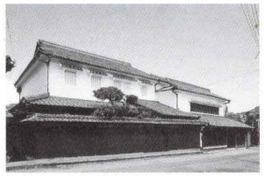
⑪ 宮崎邸　城内一丁目

宮崎家は明治後期に「温仙堂」を開業した。当時珍しかった石油販売、煙草製造や木綿織物で業績を伸ばした。ここは、旧島原藩中老・板倉左近屋敷跡で、引き続き宮崎家が屋敷を構えた。

⑫ 旧三村邸（しまばら湧水館）　新町二丁目

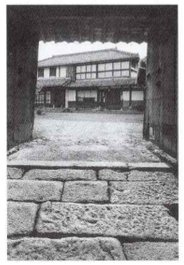
大正初年の建築で120坪の敷地に60坪の家屋が建つ。派手さは無いが、選ばれた材料を使った立派な木造建築で、三村家から平成8年に島原市土地開発公社が購入後、湧水資料館として公開している。

⑬ 松尾邸　中組町



島原大変後に新しく生まれた島原湊には、各地から人が集まり開発された。松尾家はその頃から続く海運業者で明治になるといち早く汽船を導入した。湊が栄えていた頃の豊かな船問屋の面影を残す。

⑭ 小鉢邸　札の元町

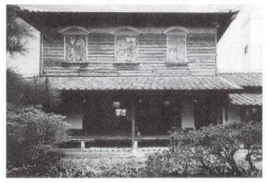


水無川は氾濫が多く、防備のため安中地区では屋敷の周りの堅固な石垣が発達した。明治以降、見事な亀甲積みが発達し、元は酒造場で肥料問屋となった小鉢邸は約100年前の貴重な姿をとどめている。

⑮ 伊東邸　新町二丁目

大手にあった伊東病院の別邸“四明荘”として、街中に大正初め建築された。東側の縁側が透明な池に張り出し、町家、池、庭が一体となって見事な空間を作る。島原の代表的な「水屋敷」である。

⑯ しまばら水屋敷　万町



藩政時代の豪商三好屋中山家の離れで、来客接待用に使われていた。明治時代の１階が和風、増築の２階が洋館という珍しい和洋折衷の建物。これも代表的な「水屋敷」として多くの観光客を集めている。

⑰ 長池邸　中堀町

藩政時代には町乙名（町役）屋敷があった。明治以降、玉岡屋呉服店、長池屋呉服店と引き継いだ。今も見事な池と庭園が残る。庭に臨む別棟離れは大正年間の建築。これまた豊かな町人の暮らしが偲ばれる。

⑱ 小早川邸　城内二丁目

旧島原藩の老連判役300石佐野勇太郎屋敷跡。上級武士の格式を伝える屋敷門。庭園には常盤御殿から流れ出た水を使った池も残っている。現在、遠隔地に住む所有者から委託された管理人が守っている。

⑲ 理髪舘　上の町

大正12年の建築の洋館造り。関東大震災後の全国的な洋館ブームの結果、島原にもモダンな洋館がいくつか残された。数年前まで実際に営業していた。今、リニューアルして「青い理髪舘」として甦る。

⑳ 喜多邸　城内三丁目

80～90年前建築の本格的洋館造りで「白い洋館」として評判を呼んだ。昭和初め、島原中の外人教師宅だった。戦時中病院に変わり、大広間に診療室や待合室が、２Ｆバルコニーに雨戸がつけられた。

㉑ 8分団1部消防詰所格納庫　上の町

ここ大手は藩政時代からの島原城下町の中心地。ここに島原町と地域の住民は、洋館ブームにのってモダンな洋風建物を造り、消防詰所とした。いくたびの改修を経て、今に残る。

㉒ 赤星邸　寺町

赤星家は島原藩御用鍛冶師であった。明治後も家業を続け、同時に島原能を継承して島原薪能を復活させた。この家屋は昭和２年に建てられた洋館風建物で、外壁のタイルは長崎の職人を集めつくらせた。

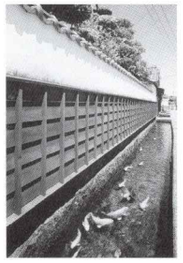
㉓ 南島原駅　津町

島原鉄道が大正２年にここ島原湊駅まで開通した。さらに、大正14年に口之津鉄道が南目へレールを延長させた。島原の南の玄関として非常に賑わっていた。その当時の建物が戦後間もなく改築された。

㉔ 武家屋敷水路　下の丁

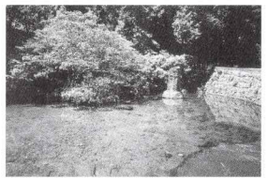
17世紀初頭、松倉重政が築城時にここに下士（足軽）屋敷街を作った。同時に生活用水として、２km北西の熊野神社から水路を引いた姿が400年残っている。これまた島原を代表する水の名所である。

㉕ 鯉の泳ぐまち　新町二丁目



このあたりの旧家には湧水を利用した庭園が多く、そこを発した清水は惜しみもなく街中を流れ下る。町内会の人たちは水路に鯉を放ち、豊かな水と自然、人の心を大切に守っていくことに努めている。

㉖ 宇土水源　宇土町



ここは島原の乱以前に龍源寺の庭園があったと伝えられる。雲仙岳の伏流水が宇土山麓の岩層から清水を湧出させ、その日量６千トン。戦争や旱魃(かんばつ)時等非常時の水のバックアップとして考えられていた。

㉗ 江里神社　江里町

宇土水源と同様に雲仙岳の伏流水が湧出しているところで、杉谷村の水源として村の水田を潤してきた。日量１万６千トン。いつの時代からか神社が祀られ「恵里」の神様として里人が崇めてきた。

㉘ 常盤御殿跡　城内二丁目

常盤御殿は島原藩主の別荘。今も見事な庭園の面影が残り、清水が湧き出ている。かつて量石で水を藩主の別邸だけでなく、周辺の上級武士屋敷にも分水していたが、明治後は水田へ導水している。

㉙ 白土湖洗い場（桶川）　白土町

200年前の島原大変時に、この一帯から湧水があふれ、白土湖ができた。湧水の日量は5～6万トンといわれ、30万人の飲用を賄えるという。今でも、隣接する湧水を地域住民は洗い場で利用している。

㉚ 浜ん川洗い場　白土桃山二丁目

島原大変で眉山が崩れ、できた海岸から清水が湧き漁民が集まり船津が造られた。「浜ん川」と呼ばれ、長年の知恵で飲用水、洗い物など区分して使っている。名物 かんざらしの店「銀水」は今は無い。